

第6回 青葉山コンサート 6th Aobayama Concert

日時 1月12日 (金)
17:30 開演 (開場17:00)

会場 東北大学工学部青葉山キャンパス
青葉記念会館1Fロビー

2018.1.12 (Fri)
Aoba Memorial Hall (1F Lobby)



Aobayama Concert

主催：青葉山コンサート実行委員会
共催：東北大学社会連携推進室
後援：東北大学工学部・工学研究科

PROGRAM

開会のあいさつ 工学研究科長・工学部長 滝澤 博胤

中田 俊彦

Toshihiko Nakata

工学研究科
技術社会システム専攻
教員

愛の挨拶

Salut d'amour

Edward William Elgar 作曲

エルガーが婚約者に贈った曲。3部形式で、軽やかに流れる伴奏音型の上で、4小節単位で語り掛けるような旋律が歌われていきます。半音階進行の効果的な使用が、作品に豊かな色彩と甘美な表情を与えています。

田原 靖彦

Yasuhiko Tahara

工学研究科
建築学専攻
OB

来たれ愛しのチターよ

komm, liebe zither

Wolfgang Amadeus Mozart 作曲

PetiteValse

Joe Heyne 作曲

自らのアレンジ・作成による伴奏音源を用いて2曲を演奏します。“来たれ愛しのチターよ”は、オリジナルはマンドリン伴奏の歌曲ですが、今回はチェンバロ伴奏のマンドリン・ソロ曲として仕立ててみました。“PetiteValse”はフランスのジョー・ハイネによる軽快なワルツで、マンドリン・アンサンブルを模擬した伴奏に乗って演奏します。

渡辺 まり

Mari Watanabe

農学研究科
M1

夜想曲第8番 変二長調 Op. 27-2

Nocturne in D-flat major Op. 27-2

Fryderyk Franciszek Chopin 作曲

夜想曲（ノクターン）の語源は、ラテン語で夜をさすNoxから派生し、夜の黙想、瞑想などの意味に転化したと考えられています。ショパンは全21曲の夜想曲を作曲しており、第8番は非常に美しい曲想で、しばしば「貴婦人のノクターン」と呼ばれています。

工楽器動隊

Kougakukidoutai

Vc.1
村田 智
Satoshi Murata
工学研究科 教員

Vc.2
石山 剛
Takeshi Ishiyama
工学部 B4

Pf.
倉井 敬史
Takafumi Kurai
工学部 B4

風の通り道

Kaze no Torimichi
久石 譲 作曲 / 倉井 敬史 編曲

皆さんご存知、ジブリの名作「となりのトトロ」において裏テーマと呼ばれる名曲。村田教授を含む工学男子三人組が、切なくも優しいメロディーを心よりお届けいたします。

会津高校OBOG アンサンブル

Aizu High School OBOG
Ensemble

Sop.
鈴木 つばさ
Tsubasa Suzuki
東北福祉大学 B4

Alt.
清野 若菜
Wakana Seino
工学部 B4

Ten.
穴澤 大樹
Daiju Anazawa
工学部 B4

Bar.
小林 紘努
Hiromu Kobayashi
理学部 B4

Bass.
新田 智史
Satoshi Nitta
理学部 B4

Simple Gifts

Joseph Brackett, Jr. 作曲

福島県立会津高等学校卒業生で、仙台市内に在学中の同期5人で組まれたアンサンブルチームです。本日はアメリカのプロアカペラグループ VOX ONEアレンジのSimple Giftsという曲をお届けします。重厚かつ繊細なハーモニーをお楽しみください。

休憩

佐藤 達也

Tatsuya Sato

情報科学研究科
教員

The nearness of you

Ned Washington 作詩 / Hoagy Carmichael 作曲

1938年に映画音楽として作曲され、1940年にグレンミラー楽団が演奏してヒット。多くのジャズミュージシャンによって演奏されていますが、Keith Jarrettのピアノのソロ演奏は素晴らしいと思います。

中山 貴史

Takashi Nakayama

理学研究科
技術職員

感謝の根

Kansha no ne

半崎 美子 作詩 / 作曲

ゆったりとしたPopsをカバーします。オリジナルは女性Vo+ピアノの演奏ですが、男性Voによるアコースティックギターの弾き語りです。

井樋 慶一

Keiichi Itoi

情報科学研究科
教員

ピアノソナタ ハ長調 K330, 第一楽章 Allegro moderato

Piano Sonata C major K330, the 1st movement, Allegro moderato
Wolfgang Amadeus Mozart 作曲

1783年モーツァルトが27歳の年にウィーンかザルツブルクで作曲されたということです。3つの楽章はどれも珠玉の名曲ですが、今日はハ長調の第一楽章を演奏します。演奏者にとってはチャレンジングですが楽しんで弾いてみたいと思います。

DUO Cellisten

Vc.
村田 智
Satoshi Murata
工学研究科 教員

Pf.
阿部 玲子
Reiko Abe
賛助

親愛の言葉

Requiebros
Gaspar Cassadó i Moreu 作曲

この曲は、スペインのチェリストで作曲家のカサドが師匠のカザルスに捧げた曲で、レキエブロスとは紳士が淑女に示す雄々しさ（Gallantry）を意味するんだそうです。すこぶる威勢が良くてカッコイイ曲です。

中田・長江研 音楽部

Nakata and Nagae Lab.
Music Club

Sop.
川島 彩貴
Saki Kawashima
工学研究科 M2

Alt.
清野 若菜
Wakana Seino
工学部 B4

Ten.
鷺辺 航
Wataru Washibe
工学研究科 M2

Bass.
中田 俊彦
Toshihiko Nakata
工学研究科 教員

Pf. & Alt.
渡辺 まり
Mari Watanabe
農学研究科 M1

ほほえみ

Hohoemi
小田切 清光 作詩 / 鈴木 憲夫 作曲

指揮者・辻正行の古希祝いのために作られた一曲。耳に残るメロディーに乗せて「ほほえみをありがとう」というフレーズが何度も歌われます。今回は現メンバーでの最後の出演ですが、また一緒に歌えることを願って、心をこめて演奏します。

休憩

GUEST

Happy Toco

ピアノ 榊原 光裕

ヴァイオリン 佐藤 聡子

ドラムス 岸川 雅裕

ベース 青木 大志

演奏プログラム

ラプソディ・イン・ブルー

Rhapsody in Blue
G. Gershwin 作曲

ジャズの萌芽期1920年代当時、売れっ子作曲家ガーシュインが2週間ほどで一気書き上げたこの曲は、シンフォニック・ジャズとも呼ばれ、ジャズとクラシックの融合の試みとしてよく知られています。私たちの演奏では、ジャズ100年の歴史の中で変遷した様々なスタイルを盛り込んだアレンジでお送りします。

組曲「展覧会の絵」より

プロムナード ～ グノーム（小人）～ バーバヤガー（鶏の足の上に立つ小屋）

Картинки с выставки (Pictures at an Exhibition)
Promenade - Gnomus - Избушка на курьих ножках (Баба-Яга)
М. П. Мусоргский (M. P. Mussorgsky) 作曲

ムソルグスキーにとって、芸術性を深く共有していた親密な友ガルトマンの突然の死は、その後の彼の人生を変えるほどのショックであったに違いありません。「展覧会の絵」は、彼がその悲しみに堪え、友への追憶と挽歌として、悲しみを芸術家の宿命として美に置き換えた作品であるのでしょうか。（引用：「追跡ムソルグスキー『展覧会の絵』」 團伊玖磨）

ジンジ

Dindi

A. C. Jobim 作曲

タイトルの由来は諸説あり、ボサノヴァ創成期に活躍したシルヴィア・テリスの愛称が「ジンジ」だったことから彼女に捧げた作品とも言われていますが、ジョビンが好んで出かけたリオの郊外にある森の名「ジリンジ(Dirindi)」にちなみ、自然への思いを歌ったもの、というのがほんとうのようです。大自然を愛しそしてまた畏れ、「エコロジスト」という言葉が流布する以前から「エコロジスト」だったジョビンは、広い空、漂う雲、木々の葉にささやく風、川の流れなど雄大な自然の営みを讃え、ジンジという女性にたとえて、音楽としたのかもしれない。

天国への階段

Stairway to Heaven

J. Page and R. Plant 作曲

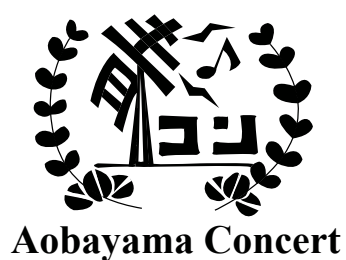
「ハード・ロック/ヘビー・メタル」の歴史のなかで語られることの多いレッド・ツェッペリンですが、ヴォーカルのロバート・プラントはケルト音楽などに志向をもち、ギターのジミー・ペイジはフォーク音楽を好んだということもあり、イギリスをはじめ、中近東などさまざまな地域の伝統音楽、民族音楽の要素をロックに導入したり、生楽器をふんだんに用いた大胆なアレンジを探求するなど、ビートルズとはまた違った方法論でロックの表現を大きく広げたバンドでした。「天国への階段」は、そのツェッペリン・サウンドの多様性を象徴する名曲です。ちなみに、かのカラヤンも「私がこの曲をアレンジしたとしても、全く同様になったことだろう」とコメントしたといえます。

ラ・フィエスタ

La Fiesta

C. Corea 作曲

ジャズ・ピアニストのチック・コリアにとって、人生のターニングポイントとなった時期の作品です。それは同時に、ジャズが「フリー」から「クロスオーバー」へ転換した時代でもありました。自身の身体に流れるスペイン系の血を意識するかのようアンダルシア地方フラメンコの要素を取り込みながら、彼の新たな人生を謳歌するようなサビへの展開が印象的な作品です。



青葉記念会館のグランドピアノは、震災後
5年を経た2016年3月に心の復興のために
機械系同窓会が寄贈したものです。

(演奏時間：平日 9:30 ~ 19:30)

協力：工学部事務部 総務課、施設管理室

青葉山コンサート実行委員会
Aobayama Concert
Executive Committee

村田 智
Satoshi Murata

中田 俊彦
Toshihiko Nakata

桑野 博喜
Hiroki Kuwano

川又 政征
Masayuki Kawamata